

はじめに

今年も7月20日の海の日に「平成11年版 日本海運の現況」をまとめることが出来ました。関係者、職員の方々に改めて御礼を申し上げたいと思います。

去年から今年にかけて、海上交通局は大きな課題をかかえ、それぞれに結論や方向性を確定しながら歩みを進めて参りました。中でも、海上運送法、船舶法の改正、内航海運船腹調整事業の解消、港湾運送事業法の改正に向けた答申の取りまとめなどは、時代を画する成果であったと思います。こうしたことを踏まえ、また、来年は西暦2000年のミレニアムを迎えることを考えて、今年の白書は副題を「21世紀に向かって舵をきる海運行政」とし、各担当課長にも健筆を奮ってもらい、第 部でそれぞれの主要な政策について時代を振り返り、今後を展望することをお願いしました。何分、多忙な日常業務の中での短期日の作業であったため、資料集め・整理の点からも精粗があり、専門的な分野の方々からは、様々な御批判もあり得ることは承知のうえですが、それぞれが最大限の努力を傾注したものであります。

今回の作業と関係方面からの御意見を参考に、2001年1月には国土交通省海事局（仮称）の所掌の一部となる海上交通事業と行政が更に発展することを願ってやみません。

海上交通局長